

和歌山城下町 地名の由来

和歌山市は城下町として栄えてきました。私たちの住むところの地名をみてみると、なぜそのように呼ばれるようになったのかと、思うことがあります。今回は岡、北ノ新地周辺の地名を見てゆきます。

- ① 岡内福院東ノ丁 おかえんぶぐいん
- ② 岡内福院西ノ丁 真言宗七曜山円福院があったことに由来します。
- ③ 岡織屋小路 おかおりやしうじ 「文久城下町図」には「オリヤ丁」と記されていますが、町名の由来は不詳。
- ④ 岡北ノ丁 ⑤ 岡南ノ丁 旧岡領丁の中央部を南北に通る道路の北側と南側に位置していたことに由来します。
- ⑥ 岡袋町 おかふくろまち 三叉路のある町並みの形態に由来します。
- ⑦ 岡林泉寺丁 おかりんせんじちよう 曹洞宗瑞龍山林泉寺があったことに由来します。小名として「白壁長屋」がありました。
- ⑧ 北ノ新地分銅丁 きたのしんちふんどうちよう 分銅の形をした自然石の大理石があったことに由来します。分銅石長屋と称したこともあります。

- ⑨ 北ノ新地田町 たまち うらたまち
- ⑩ 北ノ新地裏田町 えのきちよう
- ⑪ 北ノ新地櫓丁 安政二年(1825)許可制で遊郭ができ「萩原」と呼ばれていました。しかし万延元年(1860)から翌年にかけて藩から廃業、取り壊しを命じられ、なくなりました。

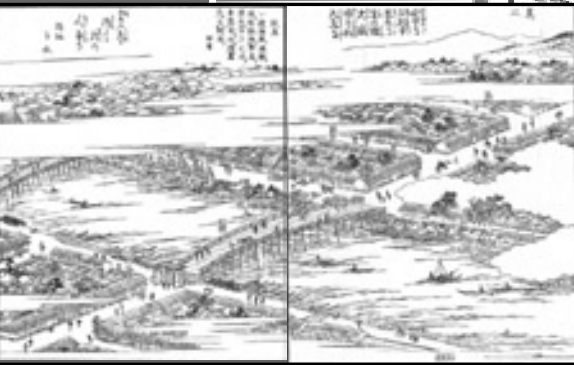
- ⑫ 北ノ新地一丁目 「文久城下町図」には、この付近を「白壁長屋」と記しています。明治十六年芸妓逐次止業に伴い女紅場(女子に裁縫、料理、読書などを教えるための施設)が田町から当町二丁目へ移転してきました。
- ⑬ 北ノ新地二丁目
- ⑭ 北ノ新地地下六軒丁 しもろっけんちよう なかるっけんちよう
- ⑮ 北ノ新地中六軒丁 かみろっけんちよう
- ⑯ 北ノ新地よ六軒丁 江戸期から呼ばれている町名。由来は不詳。



- ⑰ 北ノ新地東ノ丁 明治年間この辺りは、新内花街の南新地と呼ばれ四季折々の眺めを楽しむ大庭園があった四美館などの貸席が並んでいました。(紀伊繁盛誌)
- ⑱ 蔵小路 くすえもんしうじ
- ⑲ 蔵小路 くらしよつじ
- ⑳ 柳丁 やなぎちよう 江戸期から呼ばれている町名。由来は不詳。

- ㉑ 餌差町 えさしまち 鷹匠頭に属した餌差が住んでいたことに由来すると思われる。浄土真宗西念寺には、大正八年から昭和三年まで和歌山職業紹介所と、市立第一託児所が開設されていました。

- ㉒ 橋岡丁 はしむかいちよう 町名は、和歌川に架かる大橋に由来します。物資の集散地としてこの周辺で最も栄えた町でした。当町から東へ進むと竜神街道に、南へ進むと熊野街道に通じ、しかも和歌浦からの和歌川舟運もあり、交通の要衝でした。大立寺の山門は、昔の太田城の大門で市の指定文化財になっています。



紀伊名所図会より 中央が大橋

- ㉓ 新留丁 にんとめちよう 和歌川左岸に沿う葎原でした。元和八年(1698)中野島村の江島藤六が官許を得て築地を造成したと伝えられています。(続風土記)このことから、築屋敷ちくやしき)とも藤六町(とうろくちよう)とも呼ばれました。また、新豊酒を藩が造らせたことから新豊の意味をとって新富丁とも呼ばれました。(続風土記)「紀藩街官司秘鑑」には新留町とあります。
- ㉔ 吉田 よしだ もとは河川沿いの沼沢地で葎の類が生えていた地を秋月方面からの開墾により耕作地となったことによるとされ、葎田とも書いたといわれています。(続風土記)
- ㉕ 新内 あるち 古くは、安楽内、荒内なども書き「あらうち」とも呼ばれました。紀ノ川の河道が変化したのに伴い開墾されて集落や田畑ができて、地名は新地を意味します。
- ㉖ 夜田町 ともちちよう 昭和十六年にこの町名となりました。同十年頃まで田園風景が見られたことに由来します。
- ㉗ 美園町 みそのちよう 市立和歌山市高等女学校が在置していたことが由来です。
- ㉘ 田中町 たなかまち 町名の由来は不詳。
- ㉙ ホ込町 きひろちよう 昭和十六年にこの町名が付けられました。
- ㉚ 吹屋町 ふきやちよう 「寛政城下町図」に「金屋」と記されていることから、金属を鑄造する金屋(吹屋)が町外れに置かれていたことが町名の由来です。熊野街道のはじめとする熊野路一里塚がありました。